

市長の窓

しげ のぶ
滋宣の

ぼう ちゅう かん

あん ちゅう めい

“忙中閑あり暗中明あり”



その 47

しゅうし
～ 秋思 ～

朝夕肌寒さを感じる季節になり、あの照りつける暑さが嘘のようです。

日に日に寒々しくなるのが秋です。食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋と、色々な秋がありますが、秋は昔から思索にふける季節だと思われてきました。「秋思」はそんな秋の、ものの哀れさや物寂しい思いを感じさせる言葉です。

ほおずえ
頬杖に 深き秋思の 観世音
(高橋淡路女)

観音様の頬杖をついたポーズが、憂いを帯びて思索しているように見えることから詠まれた句です。観音様の物静かな面持ちが、「秋思」という言葉にぴったりです。

春のけだるいような物思いの「春愁」とはちょっと趣が違います。

秋の夜長、皆さんは頬杖をついて、哲学者の顔で、何を思うのでしょうか？

能代市長 齊藤 滋宣



8月6日、能代市役所で能代役七夕萬町組をお出迎えました。